

特別講演 2

「輸入発熱性疾患の鑑別と治療」

関西医科大学 公衆衛生学講座 教授

西山 利正 先生

近年、我が国では、円高が進み、格安の海外観光ツアーなどが企画され、容易に海外に渡航することができるようになり、日本人の海外渡航者数は増加してきている。また、外務省統計によると平成 14 年度には、我が国の入国者数は 2,230 万人（うち日本人 1,640 万人、外国人 590 万人）に至った。これらの入国者のうち、1,782 万人が東アジア、東南アジアなどの発展途上国からの渡航者である。

このような状況から、今後我が国でも感染症が輸入され、蔓延する可能性が示唆されている。実際、一般臨床の場で問題となる輸入感染症は発熱性疾患と下痢性疾患に大別される。輸入発熱性疾患として、代表的なものは、古典的にはマラリア、腸チフス、デング熱。また、下痢性疾患では毒素性大腸菌感染症、細菌性赤痢、コレラなどの細菌性疾患。ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症などのウイルス性疾患に注目し、それぞれの疾患についての特徴と診断さらにその対応について述べる。